

大八洲開拓団殉難碑

昭和四十六年四月十一日建立入魂。 聖蹟桜ヶ丘 拓魂碑境内。



「留魂 満州乃野に玉と砕けし我友の 昭和二十六年 昭和四十六年四月
霊魂よ永久に導け我を 加藤完治 大八洲開拓農業協同組合建之」
左側面には

「入植地 満洲三江省樺川県千振街柳毛河」

裏面には

「昭和十四年一月弥栄村の分村として入植」

と記してある。永久に私共の心の支えとして祀って行きたいと念願している。

都市化の波

組合の地区が茨城県の最南端に在り、都心に直線距離で四十キロ以内のいわゆる首都圏内に包含され、最近特にあらゆる角度から都市化の波がじわじわと押し寄せて来ている。筑波郡谷田部町を中心に研究学園都市建設が国の方針で決定され、土地買収が始められてから、その傾向がますます強められて来た。

研究学園都市建設といわず、鹿島開発といわず、大きな開発計画地区には必ず戦後の開拓地が大きく包含されている例が多い。

その例にもれず大八洲の入植地も、好むと好まざるとにかかわらず、首都圏整備の波に洗われる運命にさらされている。

昭和四十三年春ごろから、守谷町地内に国の計画に基づく公団住宅計画が進められており、そのおおりに受けて、五月十五日に日本住宅公団より県開発課を通して申し入れがあり、二十二日水戸市自治会館で日本住宅公団代表と県開発課長及び大八洲組合代表佐藤との最初の会談が行われたが、公団側の要望と、農民の立場を守る当方との意見がかみ合わない。ただ話を聞くだけの会合となり、その後守谷地区全体の話し合いも順調に進まず、いつの間にかお流れになって一応白紙に還元されたかに見えたが、「新都市計画法」が第五十八国会で成立し施行されるに及んで、その新法に基づいて昭和四十四年夏ごろより、守谷町でも市街化区域と市街化調整区域の線引きと、日本住宅公団による住宅団地造成の計画折衝が進められ、幾多の難関を通過して、四十五年四月に守谷北団

地(大八洲組合の素住台全域と大原の一部を含む)の市街化区域設定の協定がまとまり、素住台部落の移転と営農再建の方策を組合として計画推進しているが、容易ならざる難事業であると共に、生々しい現実をふまえて進行中であるので、今その経過を記録する段階でないと考えられるし、詳細を書くにしのびない心境でもあるので後世の史家の批判を仰ぐ事にし、ただここでは将来の再建が円滑に進められるように守谷町、水海道市当局始め、関係各機関・各団体の方々の御指導と御援助を念願するにとどめて置きたい。

未来への期待

以上とりとめのない、行き当たりばつたりの今日までのいきさつを書きながって来たが、系統的にまとまった締めくくりも出来ない事は私自身が一番よく知っている。まことに残念ながらいたし方ない。

そして現在の大八洲の組合も、組合員も完成されたものでもなく、満足すべき状態でもない。欠点だらけであり困った事だらけで、あえいでいる現状である事に間違いはない。

ただ一つ困った事だらけでも、みんなの力をあわせて切り抜けて行く。時にはけんかをしながらも一つの目標に向かってまともに行こうという意欲だけは、少くとも持ち合わせている事が最大の財産であると思っている。

それではこれからどうして行くのか?、どうなって行くのか?、未来への夢は?。

幾度かさじを投げかけるような苦しい道を通り抜けて、ここまでこぎつける事が出来たかげには、それなりにまた私共の心をつなぎとめる、引きつける何物かがあったのであろう。

決して豊かな暮らしでもなく、華華しい生活でもなかった。満洲での見果てぬ夢。人と人とのつながりで死線を越えた、金では買えない貴い体験。その中から自ら生まれ出た得がたいきずな。私共の間にはこのよきな筆や言葉では語りつくせぬ何物かが存在するように思えてならない。その表現出来ない土台の上に立って何事も進められて来た。団体の規律でもなく束縛でもない。

幾度か逆境に立つても、よそからその先が案じられながらも、知らず知らずのうちに何時とはなくその苦難を切り抜けて来ている。

そして将来に対しても何の不安もなく、何のちゅうちよもなく、わが行く道を進んで行ける力を蓄積して来て居る。

農民として農業を通して新しい時代を開拓して行く明るい希望を抱いている。これが私共のただ一つの財産であり、そしてこの姿をどのようにして進めて行くべきか?、進めて行きたいのか?。各それなりに夢を描いて居るにしても、これはここでは語るまい。言わぬが華であろう。

若い者には若い者の夢があり、次の世代には夢のような未知の世界があるはずである。

老人が昔を語り、未来を案じて遺言したとしても新しい時代の何の足しになるだろう。むしろ次の世代の飛躍のじゃまになり、足かせになるのが関の山である事を自覚している。

ただ私は新しい世代を信頼し、新しい活躍に大いに期待を寄せている。